
終焉へ向かう世界～異邦人事件～

カルパッチョ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終焉へ向かう世界～異邦人事件～

【NZコード】

N4625D

【作者名】

カルパツチヨ

【あらすじ】

十年前、日本の首都、東京で突如大爆発が起きた。その直後から活動を開始する謎の組織「異邦人」。異邦人を抜けた一人の男からもたらされた情報を基に日本政府は異邦人打倒を計画するが、作戦は失敗してしまった。そして、異邦人からの反撃が始まろうとしていた・・

一話「第一の悲劇」

一話「第二の悲劇」

それは唐突に起つた。日本の首都東京を中心に首都圏を巻き込んで

大きな爆発が起きた。死者数千万人と言われる大惨事の原因は十年経つた今でも特定出来ていない。大惨事の傷跡は、復旧作業で消え去つた。だが、あの悲劇が人々に与えた衝撃は消えなかつた。

「・・もう十年も経つのか・・あの騒ぎから」

「そう・・ですわね」

二人の男女が高層ビルの屋上から街を見下ろしていた。東京という大都会の街を。彼らがいう騒ぎというのは十年前、原因不明に発生した

大爆発。

「それで?彼らの動きは?」

「今所、ありません」

男はため息をつく。彼らはある組織の動きを監視していた。『異邦人』

とだけ呼ばれる謎の組織。あの大惨事に深く関わっているともされている

て、現在日本政府が総力を挙げて壊滅させようとしている。彼ら

二人も

政府に雇われている者だ。

「・・老人達からの指示は?」

「アジトに攻め入る準備が出来た。・・部隊に合流しろとのことです」

「・・なら行くか・・」

この二人はまだ知らなかつた。この作戦が、また新たな悲劇を生む事を。

異邦人のアジトは都内から少し離れた場所にあった。あの悲劇から十年。

都内の半大は復旧されたが、都内から少し離れた地域ではまだ復旧されていない地域もある。異邦人のアジトも瓦礫の山が散乱する中にあつた。

古い建物だ。今に崩れてもおかしくないくらいの。そこに数十人の完全

武装した男達が集まっていた。すぐそばには戦車もあつた。

「・・包围完了しました」

「・・ご苦労。・・三十分钟后に攻撃を開始する」

建物の周囲は完全に包囲されていた。その中にあの屋上にいた二人も

混じっていた。

「攻撃は三十分後だそうです」

「・・何も起こらなければいいが・・」

異邦人のアジトは何の動きもなかつた。これだけ人が集まっているのだ。気づかぬはずがない。それとも最初から空なのだろうか。その時、二人がいた場所と反対側で爆発が起きた。

「何だ? 今のは?」

混乱が生じる。包囲していた部隊は建物に向かい一斉に攻撃した。銃弾が飛んでいく。後方で待機していた戦車も動く。建物の中から何者かが出てくる。

「・・散れ」

突如爆発が起きた。戦闘は一瞬で終わつた。異邦人のアジトから出て

きた何者かの攻撃で、部隊は壊滅した。圧倒的なんていうものではなかつた。やられていつた者達は何が起きたかを理解していなかつた。

誰かの声が聞えたかと思えば、突然爆発が起き、一瞬にして全員が死んだ。

「・・終わったか」

「ああ。・・情報を持ったのはあいつだらうな・・」

そのころ、東京の別の場所では異邦人のアジト襲撃作戦の失敗が報告され

ていた。

「失敗か・・やはり、正規の部隊では勝てないか」

「・・あの者も動くでしょうか?」

日本政府にはある協力者が存在していた。かつて異本人に所属していた

一人の男。理由は分からぬが、たつた一人異邦人を抜け彼らに対し挑

発行為を繰り返してきた男が今は日本政府に協力している。異邦人の人

間を全て殺すためだけに。部下の質問に男は答えた。

「さあな・・。あの者が味方だという証拠も今は無い。念のため監視は続ける」

「はい」

部下が返事をしたその時、電話が鳴り響いた。男は電話をとる。電話を

かけてきたのは同僚であつた。だが、かなり慌てている。

「何があつた?」

「・・やられたよ。・・見失つた」

「何?」

男は思わず立ち上がる。異邦人の情報をこちらに提供した男。名前すら分

からぬ謎の人物。ここ一、三日彼らは常にその人物を監視していた。

だが、その監視役が見失つたというのだ。その人物はまだ味方だ

と決まった

わけではない。もしその者が敵なら大変な事になるかもしねれない。

「急いで搜せ。何かが起ころる前に」

「分かつて。そちらからも数人派遣してくれ」

「分かつた。本部にも要請しよう」

ただでさえ、作戦が失敗し動搖が生じているのだ。これ以上不安材料を増

やすわけにはいかない。何としても彼を見つけ出さねばなるまい。だが

どこにいるかも分からぬし国内にいるかどうかすら不明だ。

「・・お前も搜索に加われ」

「はい」

まだ彼らは想像もしていなかつた。この後、日本がいや、世界が震撼する

ような事件が立て続けに勃発する事を。世界が音を立てて崩れ始めようと
することを・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4625d/>

終焉へ向かう世界～異邦人事件～

2010年12月5日14時36分発行